



発行人 藤井 信吾

◆発行 取手新時代をひらく会
◆発行責任者 池田 徳光

◆URL http://www.fujii-shingo.com E-mail:hirakukaishingo@ybb.ne.jp
◆事務所 〒302-0004 取手市取手2-14-24 竹内ビル2階 TEL&FAX:0297-72-5616

島根県雲南市

「地域自主組織」を視察して

～小規模多機能自治のモデル～

取手市長 藤井 信吾

島根県雲南市は宍道湖から南側に中国山地へとつながる中山間地域です。平成16年11月に6町村が合併して誕生した市で面積は553平方キロ、人口は3万9千人です。古代のたたら製鉄の遺構や斐伊川沿いの桜並木など歴史文化が息づくまちでもあります。

この雲南市が市制施行に合わせて取り組んできた「地域自主組織」が今後の地域づくりのモデルになるとのことで今全国から視察が絶えません。この地域自主組織のことを「小規模多機能自治」とも呼んでいます。同市の「まちづくり基本条例」に拠れば、「自分たちが住む地域は、自分たちで知恵を出し汗をかきながら、みんなで創りあげていく」という基本的な考え方を、年代や性別、活動が異なる様々な組織や団体が地縁でつながり、連携を深めることにより、それぞれの長所を活かし、補完し合うことで、地域課題を自ら解決し、自地域の振興発展を図ると解説されていました。

次の例を出すと具体的にイメージできるかと思いますが、地域には、①地縁型組織(自治会、町内会)、②目的型組織(消防団、営農組織、文化サークル)、③属性型組織(PTA、女性グループ、高齢者の会)といったものが存在します。これを概ね、小学校区域で広域的な地縁組織に再編することで、地域課題を自主的に地域の総力を活かして解決していくという方向性で10年来的な努力が重ねられてきました。

市内に30の地域自主組織が立ち上がっていますが、私は下熊谷(しもくまたに)ふれあい会(405世帯、1060人)と新市(しんし)いきいき会(170世帯、578名)のそれぞれの会長さんから地域自主組織の取組内容と課題等についてお話を伺うことができました。苦労続きではあったが定着し出すと楽しくやめられないという熱気を受け止めてきました。

一つのポイントは、つながり力を高めるといことです。行政では教育分野、安全分野、福祉分野、商工振興分野と部門を独立させ、その中で事業が組み立てられることが一般的ですが、ここでは小学校単位の地域自主組織の中で「地域づくり」も「地域福祉」も「生涯学習」も一体的に進め横串を貫いて問題解決するところが強みです。もう一つのポイントは直接参加型の運営によって地域住民の当事者意識、参加意識とともに地域愛に根差した問題解決力が大きく育ってきていることだと思います。



雲南市職員からのレクチャーを受ける藤井市長

行政が行ってきたことは、ひとつは器の問題として、教育委員会が所管して「生涯学習」の機能に専念していた「公民館」を市長部局に移して、「交流センター」と改称して地域自主組織が幅広い市民活動が行えるようにしたこと。そして、帳簿を付けたたり、事務を遂行するためには運転資金が必要であることから活動資金を提供している点ももうひとつのポイントのようです。

勢いのある地域自主組織は、地域の特産品のブランド化を推し進めて、自主財源を生み出そうということ。法人化を図り、雇用責任の明確化、事業責任の明確化、税制上の優遇措置を受けようとしているようです。

さて、取手市は70平方キロとこじんまりとした市であり、経済合理性、効率性の面でも東京圏郊外部として機能性を高めて発展していける地域です。

しかし、この雲南市の取組は、その地域に暮らす住民が誇り高く地域のコミュニティの一員としての責務を果たしながら、未来を自ら拓いていくという意味で、私たち取手市民にとってもすばらしいモデルになりえます。島根県等の過疎地の中でも、エリアを小学校単位で見ればダイナミックに人が転入し、生まれる子供の数が急増しているところがあります。平均値で物を見るのではなく、人を本気にさせるドラマがどうして生まれているのかといった観点から雲南市の取組を取手でも生かしていきたいと痛感したところです。

「まちづくりシンポジウム2016」初の取手開催

～健康・医療・福祉を中心としたまちづくり～

茨城県、取手市、茨城県都市計画協会主催の「まちづくりシンポジウム2016」(以下シンポジウム)が11月12日(土)取手ウェルネスプラザで300人を超える参加者を集め、盛会裏に開催されましたのでその概要をレポートします。



藤井市長による主催者あいさつ

シンポジウムは、毎年県内の選ばれた市町村を会場として開催されるもので、本年は取手市での開催となったものです。実績が評価され、初の取手市での開催となったのです。

今後のまちづくりにおいては、高齢者や子育て世代等誰でも安心できる健康で快適な生活環境を実現することが重要課題となっている。今回のシンポジウムでは、健康・医療・福祉の視点を取り入れたまちづくりをどのように進めていくかについて基調講演をはじめパネリストによる活発なディスカッションが行われた。

「開会の挨拶」

茨城県土木部都市局長の挨拶に続き、藤井取手市長が主催都市での取組について概要説明を行った。取手市のウェルネスプラザは、敷地全体を活用し、屋内と屋外及び大屋根下での広場を活用したイベントが出来るよう計画したもので、開館1年を経過して、計画18万人の利用に対して、実績20万人強が利用しており順調な推移となっている。

3階に設置したキッズプレイルームは年間4万4千人が利用しており好評である。



うるおいまちづくり表彰式



取手ウェルネスプラザ事業の表彰

〔平成28年度茨城県うるおいのあるまちづくり顕彰事業表彰式〕
まちづくりグリーンリボン賞には4件が選ばれ、その1つに取手市のウェルネスプラザ整備事業が表彰されるとともに、まちづくりグッドデザイン賞には水府橋モニュメント設置事業(水戸市)が表彰された。

「基調講演」

筑波大学大学院教授久野譜也氏による「自然と健康になれるまちづくり」と題して基調講演が行われた。健康長寿と運動・スポーツの関係では、死亡リスクの上位から高血圧、タバコ、高血糖、運動不足、肥満の順にWHO2009の調査データで明確にされており第4位が運動不足であるとの説明がなされた。しかしながら統計上は、運動実施意思がない市民が約7割であり、運動実施意思があるか運動充足している市民は約3割にとどまっている。そこで無関心層対策のための3つの戦略が示された。①無関心層を動かすインセンティブ策、②無関心層でも健康になれる都市づくり、③無関心層にも届くコミュニケーション単位の情報提供の仕組みづくりである。これらの対策についての理論と実施例を交えて基調となる講演が行われた。

「パネルディスカッション」

久野譜也氏の司会のもとに藤井市長をはじめ5人のパネリストによりディスカッションが行われた。この中からピックアップして情報・意見等について語録風に要旨をレポートする。
・柏の葉では、歩く、しゃべる、食べるを通じての健康増進運動。あ・し・た・を提唱している。
・高齢者は、自分を高齢者だと思っていない。(思いたくない?)
・高齢者は、要介護者、認知症にはなりたくないと思っている。
・歩行速度の低下は要注意、老化の証である。
・高齢者は、社会的活動と健康イベントには関心を持っている。
・柏の葉の開発では、ソフトが重要であった。当初はホテルなし、タワーなし、の計画であった。反対はあったが計算半分、理念半分で推進に成功した。

・柏の葉は、地域クラブが多い。行政の手伝い、引出しと合わせてリーダーは、専門家に限らず経験者が力を発揮する。
・(株)アトレが運営するJR取手駅直結の商業ビル「ボックスビル取手」は、高齢者の生活に於いて冷蔵庫代わりに利用されている。店員との会話を目当てにした買い物や憩いの場として利用され、調査データ上65歳以上の利用者が増加している。ベビーカーでの来客も多い。

・茨城南青年会議所では、取手ウェルネスプラザ周辺で絆プロジェクトを開催、3市町から参加した農産物市場、短編映画会等を実施した。市としては街のにぎわいの創出に大いに寄与しており感謝!(市長より)
・取手ウェルネスプラザ事業推進にあたっては「健康」か「アート」か「商業」かといった議論もあったが、「市民交流」、「子育て」、「健康づくり」の3つの支援機能を果たし貢献している。

・他にパネリストからの多様な情報・意見があったが省略させていただきます。(レポーター 池田徳光)

元気で楽しい 市民活動の紹介

健康づくりは歩くことから
 ● 取手市歩こう会
 ～生活を豊かにする楽しい活動～
 ● 取手市高齢者クラブ連合会

健康で幸せな生活を送るためには、運動と人の交流を通じての孤独感の解消等は重要な要素です。これらを具現化するため市民活動を紹介します。

市民活動には、様々な領域の活動グループがあり、できるだけ多くを取り上げたいところですが紙面の都合上、今回は「取手市歩こう会」の活動と「取手市高齢者クラブ連合会」の「全親睦旅行」について寄稿頂きました。

取手市歩こう会の活動

取手市歩こう会会長 日野 勝博

取手市歩こう会は「健康づくりは歩くことから」をモットーに、1998年に市民有志で発足しました。

取手は何処へ行くにも交通の便が良く、取手市内の史跡・景観・ヘルスロードや関東地域の話題のスポット・社寺を巡る10～12kmのウォーキングを月2回の例会で楽しんでいきます。また、取手市の協力で「とりで利根川市民ウォーク」を主催し、県内外から300名を超えるウォーキング大会を開催しています。

会員は、50歳代から80歳代の方までの95名で、例会は市の広報紙にて市民の方へも呼びかけ、ウォーキングの素晴らしさを共有し、参加された方と共に仲間づくりに努めております。

このウォーキング活動で、気が合う仲間がランチ会、旅行、夕刻取手駅周辺のお店で親睦を進めるなどの繋がりが広がっています。

今、ウォーキングで健康づくりへの関心が高まっております。

「楽しみながら歩けば、風の色が見えてくる」の心で、歩く習慣や歩く楽しみを持ち健康であり続けるには、本人の生き甲斐になる事は勿論のこと、家族や地域にとって大きな支えとよりどころになっております。

取手市歩こう会は、取手市が進めていますスマートウェルネスで笑顔と健康づくりに、ウォーキングを通じて側面から協力してまいります。

いつまでも元気で、生き生きとしたライフスタイルを実現するには、自分の足で歩くウォーキングを行うことにより健康寿命を少しでも伸ばして行きたいと思っております。

取手市高齢者クラブ連合会の活動

仲間と支え合う輪を広げ「全親睦旅行」

取手市高齢者クラブ連合会会長 倉持 行雄

私達のクラブ連合会では、「会員の生活を豊かにする楽しい活動」



利根川河川敷ウォーキングの風景

の一環として、取手市在住の高齢者の仲間達との「親睦と交流」を活動のテーマとして「全親睦旅行」に位置づけ年間行事に組み入れ計画実践しています。

今年もまた旅行の時期がやって来た。9月26日～28日泊三日。旅行先「弥彦神社門前に佇む三百年の歴史をもつ弥彦温泉、日本海を一望できる瀬波温泉」。

仲間達の参加者を募る。自分達の予想された数より多数の方々の応募となり総数158名であった。

私達係の人は想像以上の人数の多さに喜びを感じ得た。「よかつたね」。大型バス4台にも驚きを感じる。良く言われている、核家族の増加に伴い全国的に増加している「引きこもり」や老人性うつ病の発生を少しでも抑制出来る活動かも。

さて、仲間達とのそれぞれの出会いから「親睦・交流」の輪を抱いてバスは旅先へと出発した。バスの中では、いつもの通り、ガイドさんの親切丁寧な説明を受けその土地の名所旧跡に新しい発見を感じる。バスの中の雰囲気は、多種多様な交流がみられる。ある時は笑い、真剣さも、おしゃべり、はしゃぎ声、出合いの仲間達の会話が弾む。様々な人に出会い、四季を感じ気分もリフレッシュ。

「宿泊先に到着」。バスから自分の荷を受け各部屋へ、各自温泉へと向かう。温泉のお湯は日頃の疲れを癒してくれる。温泉に入り、それぞれ浴衣気分又格別な気分である。夕方六時より、夕食及び宴の始まる時刻である。「親睦・交流」の輪を広げ合う絶好のチャンスのある。宴の始まりが来た。仲間達の心の癒し、が伺える。「乾杯」のご発声を受け宴が本番に入る。

会場の舞台上では、各単位ブロックより選ばれた方々による「出し物」がスタートした。カラオケ、おどろ、音頭、舞踊など多種多様な演技総出演である。始、終わりには、仲間達の盛大な拍手喝采。

「宴酬のとき」。特別出演として、毎年この行事に多忙にも拘わらずご参加下さいます藤井市長の「出し物」です。いつもながら重い荷のアカデオンを持参して頂き大変ご苦労をお掛けしています。

舞台上で奏でる藤井市長の姿を拝見しておりますと、奏でる音は勿論美しいと同時に心の暖かさ、用意周到さを深く感じ得る。美しいメロデー、用意された歌詩と共に、仲間達それぞれの大会唱は正に私達のテーマである「交流」の輪を表すものでないでしょうか。

市長の掲げる「健康づくり編」第六次取手総合計画の着実な推進を始めとして、おひとりおひとりの仲間達と酒を酌み交わし、誰にでも話しかけ、「出し物」のおどろの輪の中に、交流の様子には頭が下がる思いです。

仲間との交流が最高潮に達した折、写真に見られる様に私達は全員総立ちで互いに肩に手をかけ合いボケ予防の歌詩を全員で大会唱し宴を閉会としました。

「親睦と交流」の輪を広げながら各単位クラブではこの輪を活かし介護予防等にも役立てられたらと思ひ帰路に向かいました。



皆で踊り・合唱・楽しい光景

「レディス 藤の会」の 集い

レディス藤の会

「レディス藤の会」の集いが去る9月12日「取手ウェルネスプラザ」、セミナールームに於いて開催されました。藤井市長を支援する女性の会として2012年に第1回が開かれ今年で4年目(通算9回目)を迎えるものです。これまでは市内を藤代地区、取手地区の二つに分けてそれぞれの地区で開催してきましたが、今年初めての試みとして合同開催となりました。

昨年10月にオープンした「取手ウェルネスプラザ」は取手駅西口に近くアクセスが良いこと、会議などに使える広いセミナールームがあることから合同の集いを開くことができました。

当日は女性会員47名と「取手新時代をひらく会」の男性役員6名が参加して合計53名の参加となりました。藤井市長からの市政報告では活力あふれるまちづくりと定住化促進のために作られた「とりで住ま入る(スマイル)支援プラン」についての詳しい説明がなされ、若い世代が取手市に定住しやすい住宅補助制度が今年4月から始まっていることが熱く語られました。

市政報告の後は昼食のお弁当を食べながら会員同士の歓談に花が咲きました。歓談後「ウェルネスプラザ」の見学を希望する方達を募り、管理運営会社スタッフの方に案内をお願いして館内見学会を行いました。まず案内された屋上ベランダから利根川方面の素晴らしい景色を見て皆さんは歓声を上げていました。3階には雨の日も親子で一緒に遊べる「キッズプレイルーム」、2階には「保健センター」や「クッキングスタジオ」があり、当日は調理実習の講座が開かれていました。一階の「トレーニングジム」では最新のマシンを使ったトレーニング方法を専門スタッフから説明してもらいました。4年前に藤井市長が表明した「ウェルネスプラザ」は市民の交流と健康を育む施設としてオープンし、私達が期待を寄せる取手市のシンボルでもあります。

見学を終えた会員の方からは「健康であるために積極的に活用したい。場所が便利なので「オープンテラス」も気持ちがいいので気軽に立ち寄りしたい」などの声が聞かれました。

こうしてあっという間に時間が過ぎ、今年の集いも盛会裏に終えることができました。「レディス藤の会」は市長と語り合い、皆さんの思いを市政に届けることのできる会でありたいと思っております。これからもより多くの女性の皆さんの参加をお待ちしています。

(レディス藤の会・池田加代子)



参加者の皆様

しんご通信購読者募集中

取手新時代をひらく会では、「しんご通信」を発行して購読者にお届けしています。年会費は1000円です(発行3回/年)。この機会にご購読をお勧めいたします。

購読費振替先
郵便振替口座加入者名「取手新時代をひらく会」
口座記号番号 00190-5-280778

「レディス 藤の会」 入会募集中

この会は「取手新時代をひらく会」の女性会員で作る「藤井しんご支援者グループ」です。藤井市長から活動報告を聞いたり、市政に反映させるための意見集約をしたり、また親睦を深める等の活動をしています。詳しくはしんご事務所(留守電、ファクス)かメールでご確認ください。

編集後記

しんご通信48号は、47号からの発行間隔が長くなったことをお詫びします。

今回は、市民活動と健康づくりに関する記事を中心に編集しましたが市民活動については、他にも各種団体が活発に活動している様子をこれからも機会を見て紹介していきたいと考えています。

(編集長 池田徳光)